



## 学生団体の主体的な地域活動を支援

### 平成 30 年度は 5 件の新規団体を加え、10 件の活動がスタート

横浜市立大学では、平成 23 年度から「学生が自主的な探求心やチャレンジ精神をもって、コミュニケーション力や積極的な行動力を発揮しながら地域に貢献する研究や活動」を助成金で支援する「学生が取り組む地域貢献活動支援事業」を実施しています。この事業では、地域と大学の連携により地域の活性化を目指すこと、及び学生が地域の課題を見つけて主体的に地域貢献活動を計画し、地域の方々と解決の方法を探る中から、学生自身が当事者として考える力をつけ、社会に出た時の実践力を身につけることを目的としています。中には、地域の小中学校での出前授業など、何年も継続した活動により、地域に定着している取り組みもあります。

平成 30 年度は書類審査の結果、継続して活動を続けている 5 団体と、新たな課題に着目した新規 5 団体が採択されました。いずれの団体も学生ならではの視点と行動力で、地域での活動に取り組めます。

#### 〈平成 30 年度学生が取り組む地域貢献活動支援事業一覧〉

	事業名	団体名
1	舞岡・戸塚を拠点とした市民科学の発展のための架け橋活動	YCU SCIENCE らいげーす
2	医学生・看護学生が創る『医療』教育	横浜市立大学医学部 YDC
3	『三浦半島ジャーナル』の制作・発行事業【新規】	三浦半島研究会
4	「みんなでじゃがいもを育てよう」【新規】	つちのこファーマーズ
5	地域の子どもたちに向けた実験教室	科学倶楽部
6	『ハマから 2020! プロジェクト』【新規】	ボランティア支援室学生スタッフ Volunch 「オリンピック・パラリンピック企画グループ」
7	ひとつなぎプロジェクト	並木・青葉プロジェクトチーム
8	本牧地区まちづくり事業【新規】	RESTART 本牧プロジェクト
9	いのちの授業訪問事業	看護学科 いのちの授業グループ
10	神奈川県における外国につながるを持つ生徒の教育支援【新規】	JNZ (Joyful N Zippy students)

学生の活動の様子は、横浜市立大学ボランティア支援室の WEB サイト<sup>\*1</sup>で随時公開します。

※1 横浜市立大学ボランティア支援室 WEB サイト→学生が取り組む地域貢献活動支援事業→平成 30 年度採択事業一覧  
[http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~voluntee/wp/stu\\_regional-contribution/](http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~voluntee/wp/stu_regional-contribution/)

## 〈参考〉平成 30 年度学生が取り組む地域貢献活動支援事業の紹介

### 1. 舞岡・戸塚を拠点とした 市民科学の発展のための架け橋活動 YCU SCIENCE らいげーす【新規】



中学・高等学校で行っている様々な科学の取り組みは、それらを互いに共有する場がないため、活動の広がりが不十分です。そこで、我々が拠点とする舞岡・戸塚地域の中学・高等学校の科学活動を支援して生徒の自然科学への興味を促し、交流の場を作って市民科学の発展に寄与します。

具体的には「舞岡うきうき自然科学研究会」を立ち上げ、  
①ハグロトロボの研究活動 ②近隣の学校向けのサイエンスカフェ ③近隣中学校との活動の取り組みなどで生徒に科学への興味関心を高めてもらい、交流の場を通じて各校の部活や地域の活性化につなげる活動を行います。

### 3. 『三浦半島ジャーナル』の制作・発行事業 三浦半島研究会【新規】



三浦半島研究会は、フィールドワークで自然や文化に恵まれた三浦半島の魅力を探しながら、生涯を通じて三浦地域と関わっていききたいという市大生や一般市民を増やすことを目的として機関誌の発行を主軸に活動しています。

機関誌『三浦半島ジャーナル』では三浦半島での暮らしを取り上げ、Twitter・Instagramと連携して認知を獲得しています。今年度は“三浦半島での人生”をテーマに、観光客誘致目的ではなく三浦半島に暮らす人々や生活・文化を紹介し、リアルな生活を思い描いてもらうことを趣旨に、親しみやすい“雑誌のようなデザイン”で訴求します。

### 2. 医学生・看護学生が創る『医療』教育 横浜市立大学医学部 YDC



医療崩壊の原因は、医療者や病院数と患者数のアンバランスにあると考えます。これまで医学部定員増や診療報酬改定など医療供給側へのアプローチはありましたが、利用する側へのアプローチはほとんどないのが現状です。

そこで医学生・看護学生の立場から、小中学生に医療の仕組みと適正利用を広めたいと考えます。救急車不足や医療機関の使い分けなどを主軸に、今年度は3校で訪問授業を行い、「熱中症の予防と対策」「感染症と予防接種」など、保健体育や理科の内容も盛り込みます。この活動を通して、私たち自身も医療の現状を学び、良き医療者を目指します。

### 4. 「みんなでじゃがいもを育てよう」 つちのこファーマーズ【新規】



近隣保育園の子どもたちを集め、キャンパス内の畑でじゃがいもを育てながら、自然に触れる機会の少ない子どもたちに科学との出会いのきっかけとしてもらうことが目的です。他の野菜と異なり、比較的子どもたちが食べやすい植物であることが選択理由のひとつです。作業は月1回行い、絵本か紙芝居の形式で農作業について分かりやすく話す機会を設けます。

自分たちでじゃがいもを植え収穫することで、子どもたちに達成感や感動を得てもらい、大学生も普段触れ合わない年齢の子どもたちと貴重な体験を得ることも目標です。

## 5. 地域の子どもたちに向けた実験教室 科学倶楽部



小中学生を対象に学年に応じた実験教室を行うことで科学の楽しさを伝え、理科離れに歯止めをかけることを目的とし、保護者・指導者のニーズにも応えます。

小学生には身近な素材を使って、科学は身の回りにあふれていることを伝え、科学倶楽部だからこそ提供できる科学体験も行います。中学生には教科書に載っている内容を実験や座学で分かりやすく解説し、理科嫌いや苦手を克服してもらいます。また、経済的な問題を抱える子どもたちにも科学に触れる機会を作るため、2年間継続している出張型実験教室を今年も実施します。

## 7. ひとつなぎプロジェクト 並木・青葉プロジェクトチーム



この事業では、住民が住んでいるまちに愛着を持てるように手助けしたり、学童とその親・中高生・大人たちまで多世代にわたる住民同士や、同じ悩みを持ったり異なる活動をしている住民同士をつなげ、住民発信でまちづくりに参画してもらうことを目的としています。

並木地区では、リニューアルした並木ラボで、多世代間交流に加えて乳幼児期の親も取り込んだ活動を行ってまちづくりの拠点を創っていきます。青葉区では、小中高生のまち参画も考えながら勉強会・交流会・まちあるきワークショップなどを行い、保育室の存在や活動を知ってもらって、多世代をまちに取り込めるような手法を実践します。

## 6. 『ハマから2020!プロジェクト』 ボランティア支援室学生スタッフ Volunch 「オリンピック・パラリンピック企画グループ」【新規】



学内で東京オリンピック・パラリンピックに向けた講演会を行い、学生と地域の方々がふれあいながらお互いに意識・関心を高めていける地域貢献活動を目指します。

具体的には、地域の方も交えてオリンピック・パラリンピアンなどを迎えた講演会で知識を深め、ボランティアとしてオリンピック・パラリンピックに関わることを目指します。また、はまっ子ふれあいスクールなどでワークショップやスポーツ体験会を行い、子どもたちにもオリンピック・パラリンピックを楽しんでもらったり、金沢区を舞台に英語での観光案内入門講座なども実施予定です。

## 8. 本牧地区まちづくり事業 RESTART 本牧プロジェクト【新規】



中区本牧地区のさまざまな住民組織と連携し、3つのプロジェクトを進めます。

『本牧ミーティング』は、高齢住民の記憶をweb上のデジタル地図に集合知のアーカイブにして、本牧特有の歴史を後世に残すための基盤をつくります。『防災まちづくり活動』では、住民と共にまち歩きやワークショップを行い、本牧独自の「本牧防災Book」を作成して、高齢化が進む住民の危機意識向上やコミュニティの強化を目指します。

『HONMOKUIISM』では、三溪園という観光名所のポテンシャルを活かすため、本牧の歴史を辿るまち歩きなどで課題を明確化し、地域の活性化に向けた活動を行います。

